

家庭から幼児教育の在り方を変えたい



酒寄和江氏

幼児教育に長年携わってきた酒寄和江氏は、お母さんやこれからお母さんになる人を対象に「ママn i c oアカデミー」を4月に開校する。それに先駆け、「ママn i c oメソッドセミナー」を都内で開催した。ママn i c oアカデミーとそこで実践される教育メソッドについて酒寄氏に話を聞いた。

子育てに悩むママたちを教育し勇気づけたい

——お母さんらを対象としたママn i c oアカデミーを、4月に立ち上げるそうですね。

私は大手幼児教室で23年間指導していたのですが、そこで感じたのは、子供だけでなくお母さんたちも教

育しなければならぬということ。特に初めて母親になる人は不安でいっぱいです。ちょっとしたことで落ち込んでしまったり、イライラしてしまったり……。そうしたメンタル状態は、子供にも悪影響を及ぼしてしまいます。

そこで私が長年培ってきた、子供と良好な関係を築くためのエッセンスをお

母さんやこれから子育てをする方たちに伝え、家庭から幼児教育の在り方を変えたいと考えました。

——2月に開催された「ママn i c oメソッドセミナー」にはどんな方々が参加されたのですか？

アカデミーを開校する前に、どんな内容なのかを実際に体験していただく機会を設けたいと思いました。午前と午後の2回開催したのですが、「新たな刺激を受けたかった」「子育てのヒントを得て来た」「母親としての心構えを勉強しに来た」「毎日娘にイライラしているのを、それを解消できる秘訣を聞きたかった」といった、子育てに高い関心をお持ちのみならず、パパと加えられました。「パパとして子育てを学び、ママと

共有したい」という男性の方にも受講していただいています。

——セミナーでは、具体的にどのようなことを指導されたのでしょうか。

座学ではなくワークショップを通じて理解を深める方法で、子供との関係を深める方法を体感してもらいました。参加していただいたみなさんでグループをつくってもらい、そのグループ名を決めてもらいます。1回目はどんな名前であっても、一人ずつ発表する度に「それ、いいねー」と親指を立てて同意してもらおうです。

2回目はそれとは反対

想像でほめるといふのは面白いですね。

それから、「○○しなさい！」と指示するのではなく、「きれい好きリーダー」とか、「笑顔リーダー」とか、「リーダー」として役割を与えることで、子供の自主性を



参加した母親たちが自ら新しいプログラムを作成している

い考え方でした」など、うれしい感想が寄せられています。

——今後はどのような展開をお考えなのでしょう。

食育に携わっている「一般社団法人子育てマインスター協会」のさとうりさ代表理事と、東京・三鷹で探究塾を開校している「探究学舎」とコラボして、4月に特別講座を開講します。毎日子供に接しているお母さんに幅広い角度からアプローチすることで、家庭の幼児教育を変えられたらと考えています。



子供に指導するときもほめて伸ばす

に、グループ名を発表しても何も反応してはいけません。そうすると、「いいね」の一言があるだけで安心感が湧き、次も何か提案したくなる気持ちも体験できます。「子供の発言を受け入れてあげましょう！」と言ってもわかりにくいですが、ワークをおこなうことで子供の気持ちを実感。「そう思ったんだね。でも、こうしてみたら？」と、子供の言葉を承認しつつアドバイスしようという気持ちになれます。

「ほめほめワーク」という2人1組になっていただき、お互いのよい部分をほめ合うワークもおこないました。相手をほめるのはもちろん、ほめられたほうも「ありがとう」とそれを受け入れることで、お互いにプラスのエネルギーが循環します。

今日セミナーで初めて会った人の、家での様子はわからないですが「いつも子供にやさしいですね」とほめてあげると、言ったほうは「自分も子供にやさしくしなくてはいけませんし、言われたほうも「もつとやさしくしよう」と思うようになるんです。最初はみなさん照れています。段々うれしくなって止まらなくなるんですよ。

食育や探究学習ともコラボ

——セミナーを受講した人たちの感想をお聞かせください。

「子供への一言に無頓着だったので反省しました」「娘は大人しいので、つい『こうなってほしい』と言っていました。あるがママの娘らしさを認め、ほめてあげたいと思いました」「あらを探し、注意し、気分が悪くなる。この悪循環でしたが、断ち切れそうだと感じました」「できないことがあると、できるようにしようとしていましたが、できないことを認めるといふのは斬新で有り難



リーダーを任せることで子供は積極的に取り組む